

あーママで子育ていきなり! したいも

**女としての充実期に
母親の責任と義務に
さらされたくない!**

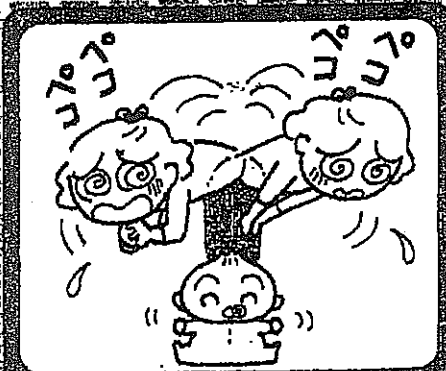
結婚後、妊娠・育児期間も利用して、インテリアコーデイネーターの資格を取得しました。技術職なら年齢に關係なく一生できる仕事と思っただけです。しかし、子供が1才になったころ、主人に「仕事を始めた」と相談したところ極反対。姑や舅まで出てきて、

「あなたには、自分の子供に対する愛情があるの!」「母親としての責任と義務についてどう考えているんだ!!」みんなに責め立てられ、断念せざるを得ない状況に。さつそうと仕事に出かけ、キャリアを積んでいる女性に比べ、ベビーカーを引いて公園へ行く



仕事に復帰して月収1万円の収入を出して休んでくつろぎたいと、同僚が勧めたところ、そのたびに「いかに人にしてほしいか」との対応をされる。子供のいない女性はとれない

世間の子供の存在は意外に少ない



うちの子供、いくら泣いても、スーパーから取り回す商品にベタベタとわけておいて、私に話したい話を聞ける前に、子供の好きなおもちゃで遊ばせよう、とつぶやいて!

自分が、とても不毛な感じ。人生を足踏みして、とんとん後れをとっているように。毎日、子供に振り回され、女としてのほんん充実した時代を見送らなければならぬのか……。

そんな思いばかりがつのり、子供がわずらわしいと感じたり母親の義務や責任ばかりを優先する夫やその家族ともかかわりを持ちたくない……。離婚も考えたのかもしれない。その後、なんとか主人の理解を得、仕事を始めることができた。私が外に出て仕事をすることで、家庭が明るくなるという点で認めてくれたのです。いまは、子育てに、仕事に毎日楽しく頑張っています。仕事を終え、子供を保育園に迎えに行くと、笑顔いっぱいでお迎えしてくれる子供は本当にかわいい! だけど、2人めの子供となる

と、躊躇してしまいます。せっかく歩み出した仕事を途中でやめたくないというのも理由のひとつ。それに、あの暗くつらかった時代には、もう戻りたくない。多分、子供が2人となると、また同じ争いが繰り返されることになると思うから。

**30代前半までは、
仕事の基礎がため。
子育ての余裕はない**

フリーで雑誌や書籍の編集の仕事をしていました。結婚は、27才のとき。当時は編集のノロクダクシオンに所属しており、女社長は40代後半、独身。「女が家庭を持つたら、仕事ができなくなる」

(30才・インテリアコーデイネーターの卵・3才の子供1人)



と反対されたもの。結婚してからも、「子供はまだよ」といわれ続けました。

実際、私もその考え。夫も同じ仕事で帰宅も遅く、夕食の用意をする必要もない主婦。それをいいことに、夜中まで仕事を朝はゆつくりめ。子供のころなど、考えるヒマもないほど忙しく、楽しかったのです。30代になったころからは、いづかは子供がほしいとは思っていました。しかし、私のフリーという立場は、仕事を依頼されなければ成立しません。子供を産んでも仕事を続けるには、その前に、ある程度のキャリアと実績を積み「仕事ができる」という評価を得なければ無理なのです。だから、36才までは必死で働きました。子供を産んだのは37才のときです。

そして、出産して10か月後、「そろそろ復帰しませんか?」の電話で希望の仕事……。努力が報われたと思いましたが、運もよかったです。2人めは考えていません。年齢的なこともありませんが、そう、何度も運よくはいかないと思うからです。それに、子供は1人で充分。楽しさも苦しさも、しっかり堪能させてもらっているから。(43才・フリーエディター・3才の子供1人)

**私の命も授かった命。
子供のために犠牲に
なるのは……**

姉は、いわゆる「まどろちやつた結婚」。得意な英語を生かせる仕事につきたいと頑張っていたのに、23才で妊娠した途端「せつかく換った命だから」と、夢を断念し結婚、出産。29才のいまは、3人の子供のママ。流行遅れの服を着て、髪振り乱

66 *出生率1.39とは、国立社会保険・人口問題研究所がこのほど発表した、1人の女性が一生の間に産むであろう子供の数のこと。

